

基本方針 6

それでは、基本方針 6 グループの評価結果の概要と感想等につきまして、グループを代表して発表いたします。

基本施策 6 1 「農林業の振興」につきましては、昨今の社会情勢による影響もありますが、生産者の高齢化、後継者不足、鳥獣等からの里山の管理など、課題が山積みであると思われまます。営農環境が良好な状態で維持できるような仕組みづくりと共に、品質面や安全性などの魅力を備えた農林業経営を通じ、現代消費者アピールを踏まえた安定的活動継続に努めていただきたいと思います。

また、休耕による空き地も目にしますので、多くの方に農業の重要性への関心を持っていただけるような農業の魅力を発信し、課題とされている担い手農家、新規就農者等の人材確保に向けた取組に努めていただきたいと思います。

次に、基本方針 6 2 「商工業の振興」につきましては、成果指標において、市内商工業の総売上高が横ばいであるのに総事業所数は 12.4%ほど減少しております。これに対しては、生産の効率化・集約化の進歩が考えられるとのことですが、事業規模変化の確認や売上高の遷移との関連等、今後、評価に繋がるデータ収集を踏まえ、今後の施策検討につなげる必要があるのではないかと考えます。

また、単位施策の成果指標にある年間商品販売額は目標数値を上回っている状況にあります。新規創業者への支援等による一定の効果が指標に繋がっているとのことでしたので、その旨も明記した方がよいと思います。

年間製造品出荷額につきましては、5年間でほぼ横ばいの状況にありますので、業績が伸びている業種とそうでない業種や事業者数が減少している要因など分析を踏まえた上で、今後の工業における施策・戦略作りに生かしていただきたいと思えます。

次に、基本施策63「観光レクリエーションの振興」につきましては、成果指標である観光客入込数が、コロナ禍による急激な減少からの回復傾向にあります。今後については、社会環境の変化への対応を踏まえるとともに、伝統と新しさをミックスした観光の形を模索し、持続可能な観光振興に努めていただきたいと思えます。

また、栃木市については、豊富な観光資源の他にも、プロスポーツチームの存在や、盛んな農業など、様々な地域資源があることから、各関連団体と連携を図りながら、効果的な事業の展開を図っていただきたいと思えます。

次に、基本施策64「雇用の創出」につきましては、新たな産業団地の整備も進んでおり、企業誘致による新規雇用者の確保は地域経済の活性化に大いに貢献するものと期待されます。

栃木市の特徴としましては、農業が盛んな地域であること、食に関わる企業が数多く存在していることがあげられます。農家や既存企業との連携を期待し、食に関する企業を中心に誘致を行うなど、戦略的な企業誘致をお願いしたいと思えます。

最後に、基本施策65「多様な地域間交流の充実」につきましては、成果指標である「地域間や国内外の人との交流が増えていると感じ

る市民の割合」が前回の調査時に比べ、大幅に増加するとともに、外国人住民も増加傾向にあります。各国の食や文化を知ることが、お互いの理解に繋がると思われますので、情報交換会や交流イベント等を開催し、多文化共生に努めていくことが重要だと思えます。

また、各地域で目的や趣旨が類似するイベントが複数開催されていますが、1市5町が合併して10年以上経過していますので、イベントの統合や廃止について、具体的に調整を進める時期に来ていると思えます。

尚、補足として一部の事業項目において、当初設定の想定状況と条件が異なったため、評価材料として既に意味をなさない評価指標が続けて使われていたものが見られました。5年間の速い社会変化の中では、必要に応じて途中で見直しを行い、項目を入替えるなど、柔軟性を持った制度運用が必要と考えられるものがありました。その点、今後の運用課題と思えます。

以上で基本方針6の作業グループの報告を終わります。